

居合道とは

居合道とは戦国時代に林崎甚助重信によって創始された武道で、爾来400年の間数多くの流派に分かれていきました。「居合」とは「立合」に対する言葉で、敵の不意の攻撃に対して一瞬をおかずに刀を抜き、敵に隙を与えずに斬る剣技です。故に、闇雲に敵を殺すことを目的とするのではなく、やむにやまねず相手を斬るという想定の下に編み出された剣技ということができません。また相手を斬る技を学ぶだけでなく、技の前後で行われる礼法、自身の刀への礼法を欠かさずに行うこととで精神面での修養も行っています。現在、居合道部のある大学は多くはありませんが全国に存在します。それぞれの大学の代表者によって学生居合道連盟が組織され、学生主体で大会運営などを行っています。白鷺会もこの組織に所属し運営に携わっています。

白鷺会の稽古

白鷺会の稽古は平白に自由稽古、土曜日全体稽古という形で行っています。全体稽古では主将の指揮のもと、全員が一斉に切り下ろしや足捌きの稽古

自由稽古の様子



自由稽古の様子



平成27年度夏季合宿 集合写真

居合道白鷺会

居合道白鷺会は昭和44(1969)年に創部され、以来半世紀近くにわたり活動を続けています。居合道は日本の伝統的な武道の一つであり、自身に向かってくる敵に対して応じ、かつ相手を倒すことを想定して行う型武道の一種です。私たちはその中でも夢想神伝流を学び日々稽古に励んでいます。

居合道はほかの武道に比べ知名度は低いですが、この記事を通じて少しでも居合道のこと、そして居合道白鷺会に興味を持っていただければ幸いです。

居合道白鷺会公式HP <http://www.kisc.meiji.ac.jp/~iaido/>

文学部3年 中島 皓輝(主将)

古を行い、師範や監督がいらっしゃる時は全体に対し、細かな技のご指導をいただいています。一方で平白の自由稽古は個人が自分に必要なことを考え、稽古内容を決めています。わからないことがあれば上級生に訊き、また自分で工夫するなどして稽古をしています。

この自由稽古という形式は、白鷺会に伝統的にある「個々を尊重する気風」をよく表しているものであると思います。居合道の業前には決められた型があり、それを逸脱して行えば誤った技となりますが、同時に演武者によって微妙に異なった業前になる、という面も存在します。これは教わる先生による違いもあれば、一人ひとりの個性や考え方の違いである場合もあります。居合道の難しさでもあり奥深さでもあるこの特性に対し、それぞれが考えながら稽古を行うことで、各自の個性に合った居合を見出し、行うことが可能です。また、相互に見合い意見を交換することで、お互いにより理解を深めることができるという点で個々の業前をより高度なものにしていくことができるものと考えています。

夏と春に行く合宿では、一週間の期

Circle Story of Meiji University

▶▶▶▶▶ 居合道白鷺会

間中に一日三回の稽古を行い、業前の向上に努めています。稽古内容は多岐にわたり、充実したものとなるため決して楽なものではありませんが、部員同士が助け合うことで部内の一体感や相互の信頼がより強固なものとなります。また期間中はOBの先輩方がご指導に見えられ、その際に現役時代のお話を伺うこともあり、白鷺会設立当初の様子を知ることができ貴重な機会でもあります。

さらに最近では他大学の居合道部との交流も盛んに行っています。合同稽古や合同合宿などを行うことで普段自分たちが行っているものとは異なった稽古を経験することで、そこから違った発見があり、新たな知識を得られるという点で、双方がより業前について考えを深めるきっかけとなるものであり、今後も積極的に行っていきたいと考えています。

先生からのお言葉

白鷺会には現在約150人のOB・OGの先輩方がおり、現在でも居合道を稽古されている方々が多数いらっしゃいます。今回はその中でも白鷺会のOBでありまた日頃ご指導いただいた

があります。近年、多くの外国の方々が熱心に居合道を学び始め、日本文化を勉強しています。皆さんには、この大学4年間で本物の居合道の「和」の精神に触れ、学び、そして世界に羽ばたいていってほしいと願っています。更なる躍進を期待しています。頑張ってください。

(寄稿・平成4年卒 監督 池田敏克 教士七段)

これからの白鷺会

ここ数年白鷺会は新入部員に恵まれ毎年10名前後が入部しており、現在部員数は29名を数え、白鷺会の歴史の中でも比較的大人気で活動しています。

また、これと同時に部員一人ひとりの実力も着実に向上してきており、学生大会にあっては平成27年度東日本学生居合道新人戦での中村彩音(情コミ2)の準優勝、同年度東日本学生居合道大会での団体戦準優勝と鎗田直(文2)の個人戦三位、並びに全日本学生居合道大会での団体戦ベスト8といった結果を残しています。また東京都内で開かれている地区大会でも、各学年の部員が優勝をはじめとした数多くの入賞を果たすなど白鷺会全体で目覚ま

副将・鎗田直(文2)



主将・中島皓輝(文3)

平成27年度東日本学生居合道大会 団体戦出場選手



師範からのご指導

ている師範と監督のお二人にご寄稿いただきました。

時の流れは速いもので、居合道白鷺会も師範鈴木庸介先生から斎藤芳吉先生へと受け継がれてもうすぐ半世紀になります。「明治の居合」も多くの先輩方から受け継がれ今日に至っています。さて「明治の居合」「明治大学らしい居合」とは、皆さんも考えてみてください。私が思う明治の居合とは技のテクニクに走らず、基本をしつかり身に付け、人の心に伝わる居合。この人の心を打つ居合は並大抵の稽古では出てきません。一生を賭けても、むずかしいと思います。私は居合には一生を賭けても打ち込む価値があると思っています。学生諸君も4年間何事にも手を抜かず一生懸命稽古して自分らしい居合を見つけてください。将来きつと役に立つ時があります。

(寄稿・昭和55年卒 師範 小堀康之 教士八段)

先日開催された「東日本学生居合道大会」、団体戦準優勝おめでとう。頑張りましたね。ここ最近の皆さんの頑張りとレベルアップには目を見張るもの

しい成果を残しています。

居合道にあっては修練すべきは自身の技前であり、試合で相手に勝つことは必ずしも重視しなければならぬことではありません。しかし、試合に勝るといふことは審判の先生方から見てもある程度正しい居合を抜いているということでもあります。各々の日頃の稽古と師範をはじめとした指導者の方々のご指導の成果をこのように目に見える形で表せることは非常に喜ばしいことであり、大きな励みとなります。

居合道白鷺会はこれからも「正しい居合」も目指して稽古に励んでいきます。その一つの目標として、創部以来未だ成し遂げられていない東日本学生居合道大会団体戦の優勝を掲げています。部員それぞれが自身の目指す居合に向けてたゆまぬ努力を続けるとともに、部の目標に向かって一丸となって邁進していくことで全体が向上していくと考えています。

これからも日々進化を続ける居合道白鷺会にどうぞご期待ください。